



「奥順整理工場」にて。後ろに干されているのが「湯通し」後の天

初めて結城を訪れたのは55年前のこと。その頃は「週刊女性自身」に勤務していて、読者サービスのための企画を宣伝部とともに進めていました。

志賀高原でキャンプをし、服部正さん率いる「慶應マンドリンククラブ」に「旗輝夫さんと湯川れいこ」さんをお招きし、「高原音楽会を企画しました。（チャコちゃん先生この頃から企画立てるのうまい。笑）」

その慶應側のマネージャーが今もお付き合っている窪田稔さん。そして窪田さんの親友でマンドリンククラブにいたのが、奥沢順、つまり「(株)奥順」の跡取り息子でした。

主催者側として色々と相談でお会している間に、スッカリ仲良しになり、服部先生とともに、結城の奥順に行く事になりました。目的はなんでもあったか今もう思い出せないのですが、服部夫人とお子さん、そして私の総勢四人運転は稔さん。

東京から車を飛ばし、結城の街についたとき、青々とした桑畑にびっくり。頃は5月だったように思います。桑の葉がみずみずしい緑でしたから

裏面へつづく

匠たちの手仕事 VOL.6

< 結城紬 > 本場結城紬 / 奥順株式会社

紅葉真っ盛りの昨年11月、「KOSMOS つれづれ 産地見学ツアー」で、本場結城紬の「奥順」さん（茨城県）へ出かけました。営業の藤井さんのガイドでまず訪ねたのは、父と息子で奥順を支える須藤家（栃木県）。まさに「伝統的工芸品産業大賞 作り手部門 功労賞」をいただいたばかりと、おめでたいタイミングでした。

ここでは結城紬の40数工程のうち、重要無形文化財指定となった代表的3工程①糸つむぎ、②拵括り、③地機織りの全てが行われています。

「糸つむぎ」結城の風合いを生み出す一番の要因となるのが、真綿から生みだされる手つむぎ糸。袋真綿を「つくし」という道具にひっかけ、指先で糸を引き出しながらツバをつけてひねります。ギュッギュという小気味よい音でつやつやの紬糸がおぼけ（桶）に蓄えられます。1反分を約3か月間かかるという作業は、粉雪が降るように静かに少しずつ進められ、いつまでもながめていたい美しさ。

「拵括り」拵柄を出すため、糸の段階で染め分ける防染作業。糸がピンと張られた床に座りこみ、印通りに寸分違わず綿糸で括っていきます。口にくわえた糸を左手で括りつけ、右手の握りバサミでカット。1反分で、多ければ10万ヶ所も括り、約3か月を要します。ハサミが1年で壊れるほど力のある男の仕事、歯が悪くなったらつづけれないそうです。

「地機織り」古来より使われてきた「地機」は、自分の腰に腰当布を通し、自身の体重をかけて経糸の張り加減を感じながら織り進みます。亀甲柄など拵柄は、緯糸の入れ具合、経糸の張り具合を加減して生みだされます。

いずれも手作業でしかできない技ばかり。絹織物で唯一の「ユネスコ無形文化遺産」として世界で認められる所以です。

次は「湯通し」をする工場「奥順整理工場」へ。ここは、私たちが着るときに肌を感じる風合いに関わる大切な工程です。仕立前に、40度のお湯に浸けて余分な糊を落とし、天日干しすると、真綿本来の空気をたっぷり含んだ風合いが戻り、結城紬独特の着心地になります。さらに、着用後

のメンテナンス、洗い張りや再度の糊付けなどもこちらで。洗い張りした後にふりでの風合いを整えると、生地が再び生き生きと蘇ります。

いよいよ奥順さんへ。4代目社長 奥沢武治さんの詳しいガイドで博物館をまわった後、たくさんの反物を見せていただきました。そこで、次々に気になる反物を、鏡を前にあててみるのですが、武治さんがすぐにその方に似合う一反を選び出される、そしてそれが本当によく似合う流石です。

拵や無地だけでなく、横縞や、ボカシ、夏結城、さらにレアなものあり、皆でたっぷり楽しませていただきました。



歯で食いしばっての拵括り作業。

また今年も結城に出掛ける予定を計画しています。普通の織物より100g軽い結城紬。真綿の空気感に包まれる幸せ、「結城紬大使」チャコちゃん先生からのおススメです。ご覧になりたい方、秋櫻舎までどうぞ。

株式会社 奥順
創業明治40年の結城紬の製造問屋。敷地内に本場結城紬染織資料館『手緒里』を併設。
<http://www.okujun.co.jp>

結城お花見ツアー(予定)
4月14日(土)～15日(日)頃
桜とうなぎと結城紬を楽しみませんか?
詳しくは秋櫻舎まで。



真綿からの手つむぎ作業。



檜の木の杼(ひ)と箆(おさ)で打ち込まれます。



藍染めされた拵糸が美しい。

結城紬大使

中谷比佐子



NHK ドラマ「鳩子の海」で使われた奥座敷でうなぎランチ。

満足。女優さんに「歩譲りながら、さり気なくいいものを着ているという自己満足なのですが、時々共演者の男優さんが「ナカタニサンいい着物着ていますね」と褒めてくださることも多いのですが、その時着ている着物が必ず結城紬か草木染めの紬です。

昔の男優さんは見る目がありましたね。そういう私の着物人生を長く見てきた順さんや稔さんのお陰、そしてその意志を受け継いだ奥順社長の奥澤武治さんが、私を「結城紬大使」に推薦してくださったのです。



熱く語られる奥澤社長。後ろの美しい結城紬ポスターは、お母さまがモデル。

その美しさに見とれていました。

養蚕農家に行き蚕にご挨拶。その頃は着物に全く興味を持っていないので、蚕も単なる昆虫としか感じませんでした。その量の多さにただ唖然。

緋くくり、機織り、染と案内されてその手仕事の複雑さと、こうまでして着物を作らねばならないのか、なんの為に？と他人事のように見て回り、奥順の座敷に通されたときホツとしたものです。

服部夫人 結城紬を選ぶ

反物を見せていただくことになり、着物に全く興味のない私は、服部夫人が細かい説明を奥順のお父上か

ら興味深く聞いている姿を、ただ不思議そうに眺めていました。

と突然

「チャコさん選んで？どれがいい？」

「はあい？」

当時ヨーロッパファッションのページを担当していたので、おしゃれには一言有ります。それをよくご存知の服部夫人です。瞬時に

「この白ののがお似合いだと思いますよ」

「私もそれかなと思っていたのよ」

と有栖川の緋（お父上から柄の説明を受ける）。皇女和宮の婚約者が有栖川宮だったけどそれと関係あるのですか？など場違いな質問をして困らせてしまった。

そのときに順のお母様が着ていら

した緑地に黒のよかけ縞の結城紬が印象に残り、何と斬新なデザインだろうと思つたものです。だからといって自分が着るといふ発想はまるつきりありませんでした。

この着物は後に奥順が資料館を作ったとき陳列され、その場所に行くとき当時の風景がよぎり、この着物に魅せられたことが結城紬を好きと思う原点になったのかしらとも感じる着物でもあるように思えます。

着物専門の記者になつてしまった

着物をより深く知りたいと思うようになったのは、いろんな取材が重なり大内順子さんと交流が深まるにつれて彼女がヨーロッパで取材する西洋の美に絶対日本も負けてはいない、いやもつと他国の美を超えるものがあるに違いない、ということに気づかされたからです。

一緒に結城紬の取材をした時、大内さんは感覚的に、瞬時に番手のかかったものに目が行きます。それは「本物」を見る目が整っているからです。

一方の私はその結城紬に携わっている人の技術や思い入れ、職人魂のよくな目に見えない物を探ろうとす

るのです。

しかし最後に一人が選ぶものが同じ種類の物であることに気が付き、私は職人魂と自分の感覚を重ねることができたらどんなにいいだろうと思いました。

それにはとことん「過程」を見ることでした。更にはものづくりの人たちの思いを聴くことでした。その上に自分もつと結城紬に手を通すことでした。

まさか私が着物研究者として再度、奥順に現れるとは予想もしていなかった奥澤家の方たちに歓迎を受け、結城紬にたくさん手を通すことができたのです。着れば着るほど、日本列島をくまなく歩いて取材する身には、3日も続けて着られる結城紬は手放せません。取材先ではどんな環境に身をおくのかも計算できませんが、結城紬は丈夫で安全。帯をとつかえひつかえして楽しむこともできます。

女優さんたちの綺麗どころの仕事には結城紬が一番さわしい

テレビドラマや映画、また舞台など衣装担当することも多かったのですが、そういうときは洪めの結城紬が一番安心で、自分自身の体も心も

KOSMOS

イベント・講演

チャコちゃん先生と楽しみながら学ぶ 日本の絹文化を満喫!

『二十四節気を感じる』 季節を通して 着物とお料理を楽しみましょう

毎月1回、季節のお料理と着物を楽しむ会を開催します。その自然現象、着物の素材や柄、しつらえなどについて、チャコちゃん先生がお話し。お料理と器についても「銀座 さくたみ」店主 佐藤健一氏が解説いたします。

●会場 「銀座 さくたみ」
080-5420-8258
中央区銀座 7-6-19
ソフレ銀座弥生ビル 5F
(JR新橋駅銀座口 徒歩6分、地下鉄銀座駅 B5 出口 徒歩4分)
日時 第1回 3月7日(水)
11:30 ~ 14:00 頃
(以後は 4/6、5/5、6/6、7/7、8/7、9/8、10/8、11/7、12/7、1/6、2/4 が仮予定日)

●会費 6,500 円/回
(税別 食事代含む)
*半年分(¥30,000)、または一年分(¥60,000)通しでの ご予約、一括お支払いに限り ¥5,400 /回
☆ご希望の方には着付け、着物レンタルいたします。(各 ¥5,400)
お申し込みお問い合わせは、秋櫻舎へお願いいたします。

日本の絹文化を満喫!

つれづれツアー in 岡谷市(長野県)

昨年に引き続き、糸都 岡谷市で行われる「日本絹文化フォーラム」にてチャコちゃん先生が「きものを着たら おとな思草(しぐさ)」をテーマにきものトークをいたします。翌日は、照光寺での「蚕霊供養塔例大祭」に参列し、市内一帯で行われる「シルクフェア in 岡谷」を楽しみますので、ぜひ一緒に。

- ①「日本絹文化フォーラム 2018」『絹の神秘を纏う』
4月28日(土)13:00-17:35
カノラホールにて。参加費、テキスト代無料。
他ゲスト：染色史家 吉岡幸雄氏、銀座もとじ代表取締役社長 泉二弘明氏、NPOシルク文化協会副理事長 会田進氏、染織家 湯本佐緒里氏
- ②「蚕霊供養塔 例大祭」
4月29日(日)(午前中)
照光寺境内
- ③「シルクフェア in おかや」
4月29日(日)
岡谷近代化蚕業遺産巡り、シルククラフト展、糸街回廊ほか各所で随時開催。
当日は岡谷蚕糸博物館と宮坂製糸(併設)が入場無料。おすすめです!
→http://silkfact.jp

秋櫻舎講座 スケジュール

2018年2-3月

schedule

つれづれの会

- テーマ 「日本人なら知っておきたい 天皇制の諸々」
- 開催予定日 (全て第4土曜日)
3/24、5/26
(4月は岡谷ツアーでお休み)
- 参加費 5,000 円(税込)